

## 令和6年度第2回 旭川市食育推進会議 会議録（要旨）

日時：令和7年2月10日（月）

午後6時30分～午後8時00分

場所：旭川市総合庁舎7階 大会議室B

### 1 開会

- ・開会宣言
- ・議題等の説明
- ・配付資料等の確認

### 2 議事（1）報告事項 ア 第4次旭川市食育推進計画の推進に向けた令和6年度の取組状況

（資料1 第4次旭川市食育推進計画の推進に向けた令和6年度の取組状況）

（事務局）

- ・第4次旭川市食育推進計画の推進に向けた、令和6年度の市の取組状況を報告。多少の濃淡はあるが、全体的にくまなく事業を推進できている状況。

### 2 議事（2）議題 ア 令和6年度食育関係事業実績及び令和7年度事業計画について

（資料2 令和6年度食育関係事業一覧【委員回答分】）

（資料3 令和6・7年度 市の主な食育関係事業一覧）

（資料3-2 令和6・7年度 市の主な食品ロス削減関係事業一覧）

（事務局）

- ・令和6年度の市の主な食育関係事業実績及び令和7年度の市の主な食育関係事業計画、令和6年度の市の主な食品ロス削減関係事業実績及び令和7年度の市の主な食品ロス削減事業計画について報告。

（各委員から所属団体等における取組みを資料2に添って報告）

（会長）

- ・（資料No.1）旭川おとな食堂について、こども食堂の運営をしている団体から依頼があり、こども食堂の運営者に衛生管理や食育などに関する講演やグループワークを実施した。
- ・（資料No.2）はらぺこクッキングは私が直接的に関係している取組みではないが、北海道教育大旭川校の教授が取り組んでいる食育活動で、夏と冬の年2回、小学生を対象に北星公民館で一緒に料理を作り、そのときに大学生がサポートしている事業である。

(A委員)

- ・(資料 No. 5) 産地見学交流会では上川町にある大雪高原牛肥育場で餌やり体験をしてきた。
- ・(資料 No. 6) 日本ハム旭川工場が建て替えられたので組合員とともに見学に行き、地元の企業について学ぶ機会になった。
- ・(資料 No. 7) 食べるたいせつフェスティバルは昨年 10 月に実施。様々な体験プログラムを設け、その中の 1 つとして JA 上川中央の職員がクイズ形式で子どもたちに良い栄養を教えるイベントを行った。来年は 9 月 20 日に開催予定。
- ・(資料 No. 8) オンライン料理教室を開催し、電子レンジだけで作れるような簡単な料理を作った。

(B委員)

- ・(資料 No. 10) みんなのこども食堂は旭川市立大学短期大学部の食物栄養学科の学生たちが調理を担い、5 年続けてきたが、昨年の 12 月で一旦終了した。次年度は短大校舎を利用して地域の方に食堂を開き、近くの方に来てもらいたいと考えている。毎年 1 回、この時期に利用者アンケートを行うが、1 食 2.2g ぐらいの食塩量で作っているの、おいしいと言ってくれる方は 6 割ぐらい。高齢者の利用が増えてきて嬉しいが、私たちが食べておいしく感じるものと、参加者の満足度が異なるので今後の課題として進めたい。
- ・(資料 No. 11) レシピ動画を学生と撮り、市の Instagram に投稿している。先日、保健所職員と打ち合わせた際、学生自身が朝ごはんを食べていないという課題も推察されたため、学生の行動変容にも繋げていきたい。

(C委員)

- ・(資料 No. 12) 北海道栄養士会旭川支部では健康まつりにブースを出しており、例年は栄養相談コーナーに特化していたが、今年度はクイズと折り紙を取り入れた。子どもにも興味を持ってもらい、幅広い年齢層の方が来訪した。

(D委員)

- ・(資料 No. 14, 15) 私の小学校では給食時間に栄養教諭による指導を行うとともに、給食委員会による栄養についての放送も毎日行っている。6 月と 11 月には「早ね、早おき、朝ごはん」と「バランスよく食べよう」というテーマで、全校で食育に取り組んだ。
- ・給食全般について保護者に理解してもらえるように給食試食会を今年度も実施した。

(E委員)

- ・(資料 No. 17) 自身が会員である旭川食生活改善協議会（以下、食改協議会）では、講習会を年 30 回実施した。内容の内訳は生活習慣病予防 3 回、フレイル予防 15 回、未就学児対象の食育遊びを 12 回。
- ・(資料 No. 18) 市民を対象に食改協議会で乳製品の料理教室を実施した。高齢になる

とビタミンやカルシウムもとりにづらくなるので、それらを取り入れた調理実習を行っている。

- ・(資料 No. 19) 食改協議会では食べるたいせつフェスティバルにも参加しており、今年度は雑誌に写真で取り上げられ、活動を見てもらえて励みとなった。
- ・(資料 No. 20) 神居東地区社会福祉協議会から依頼を受け、男性一人暮らし料理教室を実施した。文化鍋でご飯を炊き、電気よりもおいしく時短で作れることや、みそ玉を使った簡単なみそ汁作りを体験してもらえた。

#### 【御意見・御質問及び回答】

(B委員)

- ・給食の試食会は全ての父兄に案内されるのか。

(D委員)

- ・その年による。全校の保護者対象ということもあるが、修学旅行や宿泊体験学習で児童がいないときでなければ食器が空かないので、一つか二つの学年を対象として実施することが多い。

(B委員)

- ・例年、何食くらい提供されるのか。

(D委員)

- ・一学年で60名いたら40名くらい。最近は父親が参加する家庭も結構多い。

(B委員)

- ・男性の料理教室は何人くらい参加されたのか。

(E委員)

- ・今回は施設の規模の関係により15名で行った。

(F委員)

- ・こども食堂を運営している方を対象に講演を行ったとあるが、旭川にはどのぐらいの数の子ども食堂があるのか。

(会長)

- ・具体的な数字はわからないが、旭川おとな食堂のホームページによると、20～30ぐらいあるようである。

(F委員)

- ・講演には何人くらい参加されたのか。

(会長)

- ・20名程度の参加であった。

(事務局)

- ・男性の料理教室について、社会福祉協議会が主催ということで、恐らく高齢男性対象というイメージだと思うが、参加者は高齢で独居の男性になるのか。

(E委員)

- ・この事業は「一人になったらどうしよう」という男性高齢者の一声から始まった。そのため、事業名称も「男性一人暮らし料理教室」としたが、それでは人が集まりづらかったため、興味のある方の参加を募った。若い方は仕事があるため、やはり参加者は高齢者がほとんどだった。

(会長)

- ・一人暮らしの男性を対象とした場合、周知がすごく重要だと思うが、どのような方法としたのか。

(E委員)

- ・今回の場合は社会福祉協議会で神居東地区の全戸に回覧を回した。ただ、それでも申込みは少なく、役員も数名参加した。

(会長)

- ・市の食育 Instagram について、若者には見てもらえているのか。

(事務局)

- ・Instagram は開設して1年が経過し、フォロワー数は現在 190 程度とじわじわと伸びてきている状況である。フォロワーの年齢などは分からないが、アイコンにされている写真や名前の雰囲気から若い方も多いのではないかという印象。また、市内の企業にも少しずつ認知されているようで、フォローやいいねなど関心を寄せてもらえているようである。

(G委員)

- ・事業を企画している委員の皆さんは、何を目的やゴールとしているのかについて聞きたい。

(B委員)

- ・こども食堂を始めたときはコロナ禍であったため、困っている人の助けになりたいということが最初の目的だった。しかし、本当に困っている人に届いているのかはよくわからない。
- ・今は色々な方が来てくれて、楽しんで帰ってくればよいと目的が変わった。最近が高齢者の参加が増えてきているので、ゴールは毎回変動的になっている。

(F委員)

- ・こども食堂は子どもしか食べられないのか。

(B委員)

- ・300円必要だが、大人も来てもらえると嬉しい。

(H委員)

- ・僕らは生産出荷協議会という野菜を作っている生産者の団体で、まず地元の方に旭川の農産物を食べてもらい応援してもらうことを目標に、スーパーとコラボする取り組みなどを行っている。

- ・最近では米が高くなったが生産者側から言うと今まで高くならなかったのが不思議なくらい。農家からスーパーに届くまでの各所で手数料がかかり、肥料が値上がっても米の価格は上がらないままだと生産者はどんどん辞めてしまう。今の取組みのゴールは、安心して来年も生産を続けられる状況に持っていくこと。

(A委員)

- ・産地見学で生産者の方と話すことによって、子どもたちが野菜をもっと身近に感じられ、苦手なものにもチャレンジする気持ちになることが大切だと思う。生産者の側から見ると、どのような人が買って、どのように食べているのかを聞きたい思いがあるので、私たちスーパーが生産者と消費者を繋いでいきたい。
- ・最終的にゴールにしているのは、どんな人も住みよい地域を作っていくこと。食を通して困りごとを解決していきたい。

(I委員)

- ・こども食堂の手伝いに行ったことがあるが、子どもと運営側の大人の雰囲気がとても良く、その反面、子ども達のコミュニティがかなり出来上がっている気がした。新しく来た子どもが入りやすくするためにどのような工夫をしているのか。

(B委員)

- ・今まで来てくれた方を大事にしたい一方、新しい方にも門は開きたいジレンマがある。
- ・新しく来た子がコミュニティに入りづらいという経験は私にはなく、かっちりしない緩やかな感じで運営していることがよいのではないかと。他のこども食堂では運営側が子どもたちの部屋を分けたり、合わない子ども同士はご飯を出すときも別に食べさせる配慮をしていると聞いている。

(会長)

- ・教育大旭川校では「えんぴつとはし」という活動を実施している。月に2回子どもたちに勉強と食事を提供しており、こども食堂のようなことを大学の団体が行っている。毎回90名近くの子供たちが楽しみにやってくるが、ママさんたちの口コミにより広がったものであり、横の繋がりが参加者増の要因になっている。
- ・市の取組で食事バランスガイドの普及啓発事業があるが、私はこのガイドはあまり普及していないと思っており、どれくらいの旭川市民が知っているのか疑問である。国で作成された当初はコンビニ弁当等にもコマが付いていたりポスターも見たが、今は尻すぼみだと思う。市で認知目標などは立てているのか。

(事務局)

- ・普及の数値的な目標は定めていない。食事バランスガイドは確かに一時に比べると下火になっていることも否めないが、食事をどれくらい食べたら良いか、具体的な目安を伝える方法が中々難しいところがあり、他に比べると食事バランスガイドは量の目安を示しやすいものであるため、市の事業では活用している状況である。

(E委員)

- ・食改協議会の活動で食事バランスガイドを使うが、個人的には分かりづらく、人にも理解されにくいと感じる。中学校の家庭科の教科書にも出ているが、非常に小さく載っていて、先生は説明されているのか疑問。うまく活用されている方がいれば私も話を聞きたい。

(会長)

- ・食事バランスガイドは家庭科の教科書には載っているが、学習指導要領には記載がないので、それを使って授業を立てることはほぼないと思う。中学生にとっても難しいと思うし、サービングという単位が分かりづらい。

## 2 議事(2) 議題イ 学校給食における減塩給食の提供について(学校保健課)

(資料4 学校給食における減塩給食の提供について)

(資料4-2 減塩給食指導資料)

(事務局)

学校給食における減塩給食の提供について説明

- ・食育推進計画の重点政策の一つである心身の健康を支える食育の推進の取組みとして、健康教育に関連する給食提供があっても良いのではないかという考えを持ち、減塩給食の提供を実施することとした。
- ・減塩給食は今回初めての実施となるので、その後の評価等は栄養教諭と進めながら、今後も継続した実施となるよう進めていきたい。

(会長)

- ・減塩給食の運用開始前であるが、学校給食の関係で栄養教諭の委員から話を聞きたい。

(D委員)

- ・学校給食では子どもたちに適切な塩分摂取量を習慣づけること、腎臓の健康維持、小さいときから減塩の味に慣れさせるという目的を持っている。
- ・減塩の取組みとして調味料を一つずつ見直したり、保護者に減塩食のすすめの話をしたり、子どもたちには給食時間や特別活動、家庭科の時間や給食だよりを通して減塩の話をしている。

### 【御意見・御質問及び回答】

(A委員)

- ・素晴らしい取組みだと思って驚いた。子どものうちから身近に感じておくのはすごく良いと思うが、正直、もう給食には減塩なんて必要ないと思っていた。いつも食べている給食よりもどのくらい減塩になっているのか。

(D委員)

- ・今回、減塩給食というテーマで実施はするが、学校給食はそもそも塩分をたくさんと

るものではないので、この日の献立が特に減塩に特化している訳ではなく、普段から給食の減塩には取り組んでいる。

(J委員)

- ・資料4-2の給食指導資料はよく出来ていると思うが、子どもたちには配るのか。

(D委員)

- ・学校ごとに異なる。大きく掲示する学校や学級で掲示している学校、1枚ずつ配ることもある。私の学校では学級ごとに掲示し、減塩の給食であることを校内放送で流そうと思っている。

(J委員)

- ・子どもたちに今日は特別の給食だと知ってもらう必要があると思う。食べた結果のアンケートや給食の残量を調べたりしながら、減塩でもこんなにおいしく食べられるということを自然と教えていければよいと思う。

(D委員)

- ・残菜については毎日の給食で計量して残菜率を出しているのので、それを改めて子どもたちに知らせることを予定している。アンケートはこれから検討したい。

## 2 議事(2) 議題ウ 食料品販売店における減塩の普及啓発事業について(健康推進課地域健康づくり担当)

(資料5 食料品販売店における減塩の普及啓発事業について)

(事務局)

食料品販売店における減塩の普及啓発事業について説明

- ・食育推進計画の重点テーマの一つである食塩摂取量の減少に関して、本市の健康課題等を踏まえると更なる積極的な取り組みが必要であると感じており、新規事業について検討を進めていたところ、本会議の委員であるA委員から食育活動の場として、市内の店舗が活用できるとお話をいただいた。
- ・食料品を購入する場であるスーパーで食生活に係る普及啓発の取り組みを行うことは、市民の皆さんには非常に身近で大変意義深いものと考え、コープさっぽろ様との共催で事業を実施することとなった。
- ・まずは2月にプレ実施として行い、次年度以降はこのようなイベントの定期開催やイベント当日以外も店舗で掲示物などを常設することによって、市民の皆様により一層の働きかけを行いたい。当日は食改協議会の皆様にお手伝いいただける。

(会長)

- ・市とともに事業実施されるコープさっぽろの委員から、追加の説明等があればお願いしたい。

(A委員)

- ・「あさしお適塩ライフ」という言葉は一度知ってもらおうとすごく分かりやすい。私自身は今まで減塩をあまり気にしたことがないが、改めて売り場や他のスーパーも見ると色々な商品があると思ったので、たくさんの人に紹介して健康に良い生活をしてもらいたい。

(E委員)

- ・食改協議会としても初めての試みで、お手伝いさせてもらうことにワクワクしている。市内一円で減塩の講話をしているが、もっと広めていけるところがないかと模索していたところなのでありがたい。

(A委員)

- ・若い委員の方は減塩についてあまり聞いたことがないと思うが、事業の内容を見て、このような内容だったら良いのにとすることがあれば教えてもらいたい。

(G委員)

- ・学校給食の話になるが、私がいた学校では給食がとてもおいしくて楽しみの一つだった。それで子どものときに食べるのが好きになった。
- ・減塩の給食になると全員の口には合わなかったり、慣れるのに苦労したり、苦手な食べ物をより苦手を感じる人が増えるのではないかという懸念がある。

(A委員)

- ・早めに慣れてもらって給食を楽しんでもらいたい。

(会長)

- ・あさしお適塩ライフのイベントは年齢に関係なく対象になるのか。

(A委員)

- ・最初は年配の人が対象の事業かと思ったが、保健所からは子育て世代の方にも広めていきたいと話があり、ちびっこコープデーである火曜日の昼前の時間帯が子ども連れの来店率が高いため、その日時に開催することとした。本当は次年度から開催と言われたが、とりあえずやってみて、やりながら考えようと思っている。

(会長)

- ・恐らく子どもは素直に意見を言うと思う。もしかしたら減塩されたものはおいしくないと言ってしまうかもしれないが、それでも大丈夫という意見もたくさん出ると思うので、そのようなところから減塩を進められたら。

(A委員)

- ・今は減塩のお菓子もあるので身近に感じてもらえたらと思う。

### 3 その他

- ・事務局から連絡事項伝達

### 4 閉会